

奥多摩なら

- 登山靴：スリーシーズン用でOK
- アウター：レインウェアでOK
- ピッケル、三種の神器：原則的には要らない
- アイゼン：チェーンスパイクか軽アイゼン
- 手袋：オーバークグローブまでは要らないこともあるが冷え性なら必要
- ゴーグル：そこまで荒れそうなら中止。サングラスは必要
- GPS、サーモス、ツェルト：必要

ただし、奥多摩は結構険しい



奥多摩の山は標高の割に急峻です

奥多摩の冬山で注意すべき点

- 標高は2000mまでだが、急峻な地形が多くあり滑落リスクが高い山、尾根が多い
(川苔山、大岳山、鋸尾根、御前山、稲村尾根など)
- 低山は作業道や獣道など登山道以外の道が多い。冬は道が埋まって見えなくなる。道迷い遭難も多いので、GPSアプリ、地図、コンパスは必携
- 2月下旬から3月の南岸低気圧による降雪に注意。降雪直後のマイナールートは吹き溜まりでラッセルになることもある
- 北面や日陰には雪やアイスバーンが残りがちなので、冬期は一応軽アイゼンやチェーンスパイクが必要

奥多摩で冬の入門に良い山

- 三頭山：都民の森側から登る。奥多摩湖側から登るとかなり大変
- 高水三山：標高が低くお手頃。日当たりも良い
- 御岳、日の出山：ケーブルカーを使うと楽
- 雲取山：行程が長く標高は高いが危険な箇所は少ない。危険なのは小袖と堂所の間（滑落が多い）とセツ石山の巻道（一部凍っている）。日帰りは時間が足りないので一泊がオススメ。装備とウェアはしっかり準備